

2021年における交通死亡事故の発生状況について
 ～事故や故障などで停止した車両への追突事故が多発しています～

中日本高速道路株式会社が管理する高速道路で2021年(1月1日～12月31日)に発生した交通死亡事故について取りまとめましたので、お知らせします。

- ① 死亡事故件数は26件、死亡者数は30名。2020年と比べて、6件・9名増加しました。(図1参照)
- ② 件数・人数ともに増加したものの、民営化(2005年)以降2番目に少ない結果となりました。
- ③ 死亡事故形態では車両単独で構造物などに衝突する事故が全体のおよそ40%、対停止車両(渋滞や事故などで停止していた車両に追突する事故)が全体のおよそ30%を占めております。
 また、高速道路上で人がはねられる対人事故が昨年と同様に全体のおよそ20%を占め、あとを絶たない状況です。(図2参照)
- ④ 路線別では、前年と比べ、北陸道、名神、中央道などで死亡事故が増加する一方、東名、圏央道などで死亡事故が減少しました。(図3参照)

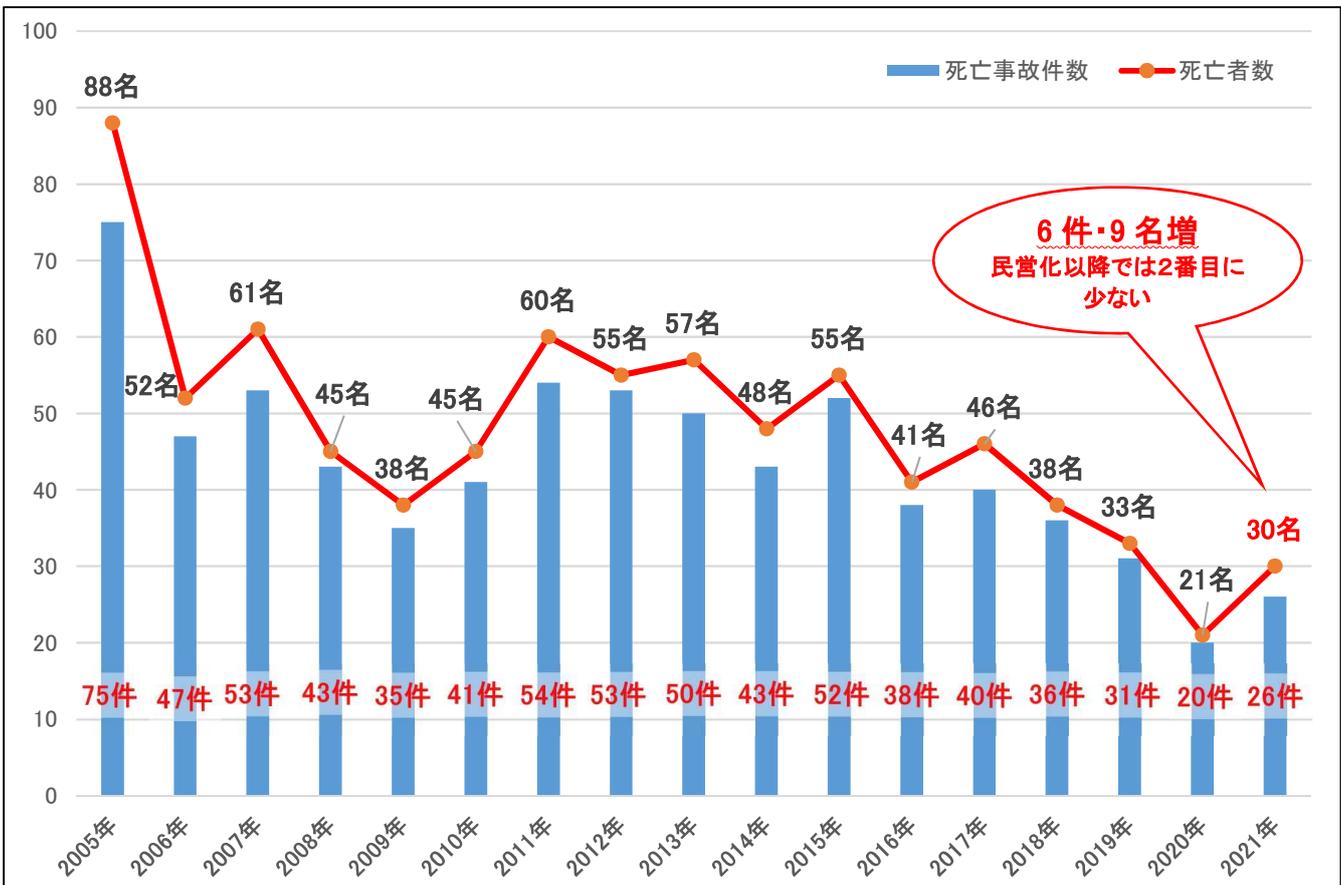
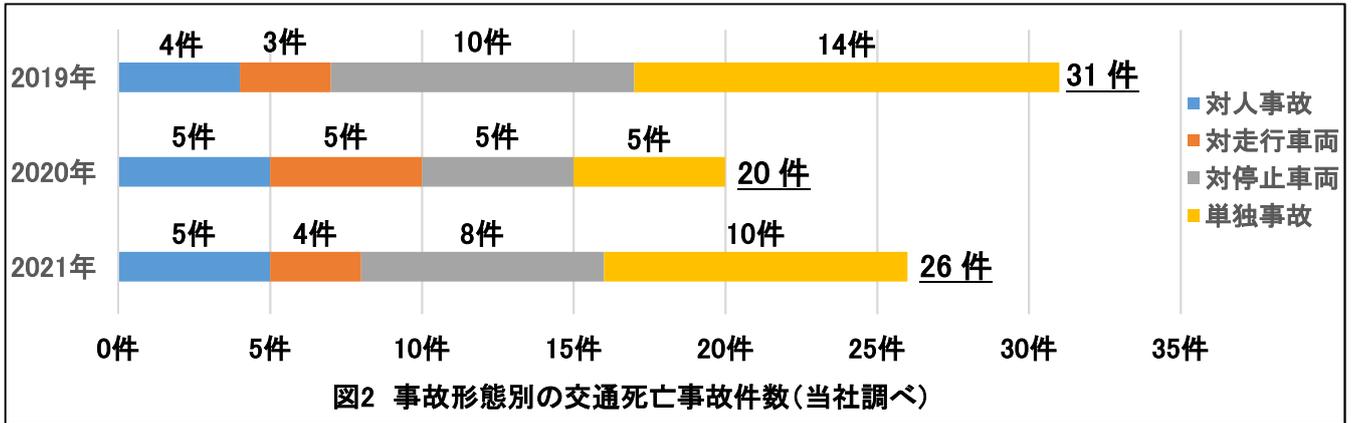
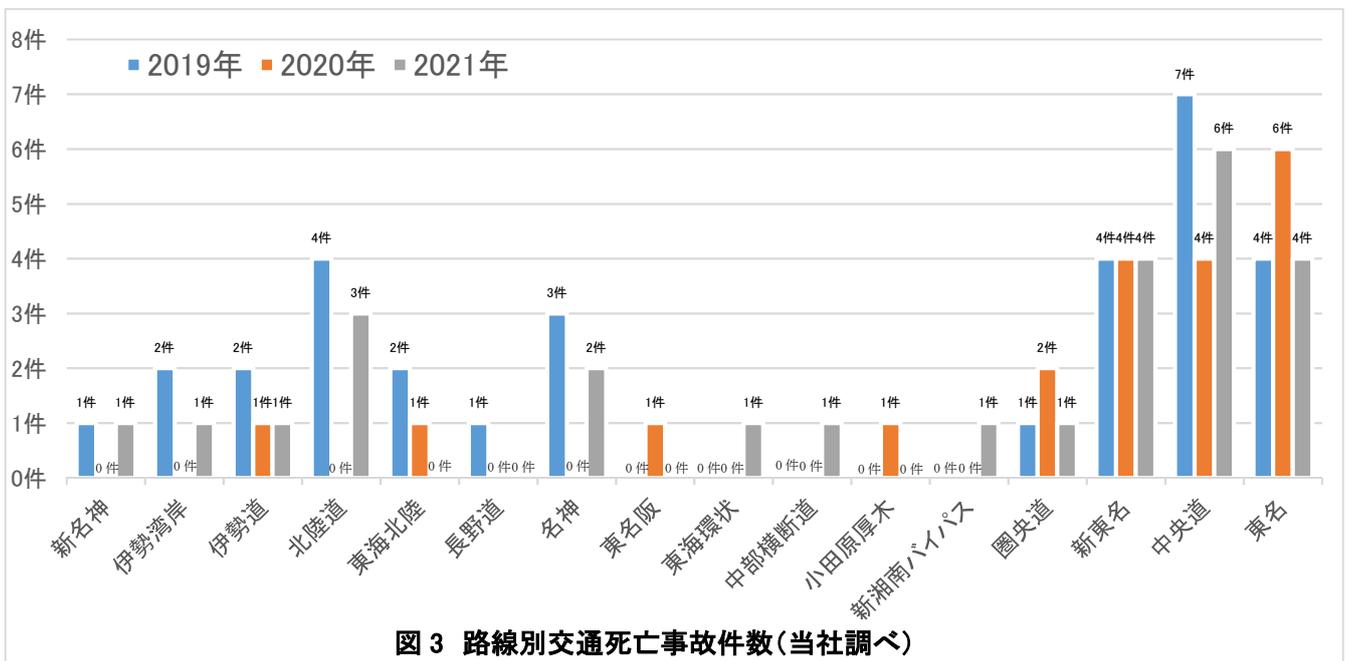


図1 交通死亡事故発生状況の推移(当社調べ)



2021年は2020年と比べ、単独事故および対停止車両が増加した一方、対走行車両(走行中に他の車両と接触する事故)および対人事故が減少しました。また前々年と比べ、対走行車両が増加した一方、単独事故および対停止車両が減少しました。



2021年は2020年と比べ、北陸道、名神、中央道などでの死亡事故が増加する一方、東名、圏央道などでの死亡事故が減少しました。

表1 当社管内の事故件数(当社調べ)

	事故件数	うち死傷事故※	
		うち死傷事故※	うち死亡事故
2021年	10,555件(104%)《79%》	965件(104%)《83%》	26件(130%)《84%》
2020年	10,165件	931件	20件
2019年	13,329件	1,166件	31件

()内は対前年比、《 》内は対前々年比

※死傷事故は、死亡事故および負傷事故の件数

■2021年の交通安全啓発の取組み

1. 交通安全キャンペーンの実施

各季の交通安全運動・交通安全キャンペーン期間中(春・夏・秋・冬)に、管内のサービスエリアやパーキングエリアで、「対停止車両事故」、「対人事故」や「ながら運転」にスポットを当てた交通安全啓発を実施しました。



東北陸道 ひるがの高原 SA での実施状況



中央道 石川 PA での実施状況

2. SA・PA のデジタルサイネージやマルチインフォメーションボード(MIB)での交通安全啓発



男子トイレ前のデジタルサイネージ



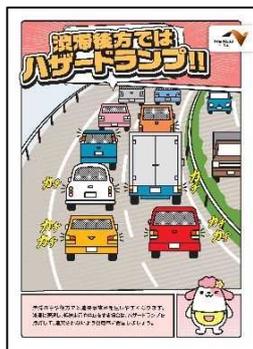
トイレ付近の MIB

掲示

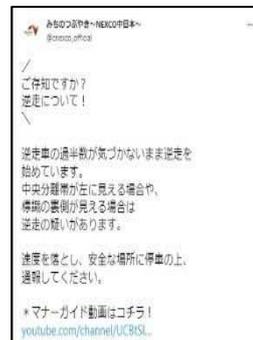


3. SNS(Twitter)を用いて情報を発信

Twitterの特性である拡散効果を期待し、ポップで親しみやすい画調や動画による交通安全啓発を実施しました。

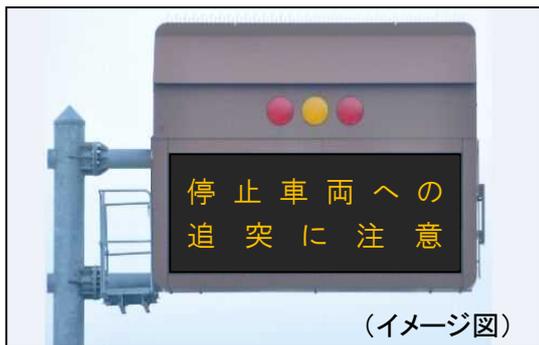


※SA・PA で配布している「高速道路マナーガイド」より抜粋



※SNS(Twitter)による逆走防止投稿内容

4. 情報提供による交通安全啓発



例:故障車等停止車両の注意喚起



事故の情報です。
△△キロ先で、事故が発生しています。

例:「みちらじ」による交通情報の提供

■事故防止対策

1.工事規制区間での事故対策

本線での工事規制区間内に突入する事故が増加しています。2021 年は工事に従事していた者が死亡する事故が 1 件発生しました。

工事規制区間での事故を防止するため、工事規制開始地点や、規制区間内での注意喚起、規制内作業箇所への防護などの取り組みをおこなっています。

➤ 工事規制区間での事故件数

表 2 工事規制区間での年度別事故件数(当社調べ)

種別	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度※	合計
接触事故	103	149	207	324	413	1196

※2021 年度は 12 月 31 日までの速報値



工事規制区間への突入事故事例



工事関係車両への衝突事故事例

➤ 対策事例



工事規制開始地点での注意喚起事例
(バルーン人形の設置)



工事規制開始地点での注意喚起事例
(矢印板の大型化)



工事規制区間内での注意喚起事例
(導流レーンマーク・矢羽根シート)



工事規制区間内での注意喚起事例
(指向性スピーカー)



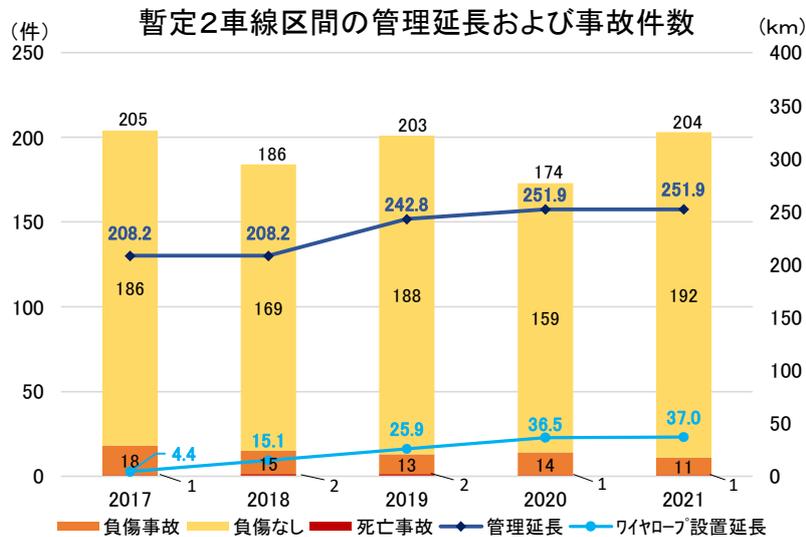
規制内作業箇所の防護対策事例
(大型移動式防護車両)



工事規制区間手前での注意喚起事例
(標識車)

2. 暫定 2 車線区間の事故対策

暫定 2 車線区間では、年間 200 件前後の事故が発生しております。2021 年は死亡事故が 1 件発生しています。区画柵など(ワイヤロープ等)の整備を中心に安全対策を進めてまいります。



※事故件数は当社調べによる暦年の集計値

図 4 暫定 2 車線区間の管理延長および事故件数

(1) ワイヤロープの整備(土工部・中小橋)

重大事故につながりやすい反対車線への飛び出し事故防止対策として、土工部、中小橋(延長 50m 未満)については、ラバーポールに代えてワイヤロープの設置を 2017 年からおこなっており、2022 年度内の設置完了を目指しています。

ワイヤロープ設置の延長とともに接触事故件数は増加していますが、反対車線に飛び出す事故を防止する役割を果たしています。



ワイヤロープの設置状況



ワイヤロープの設置で反対車線に飛び出さずに停止



図5 ワイヤロープの設置箇所

表3 ワイヤロープの設置延長

区間	設置対象	設置済	未設置
土工部	37.5km	37.0km	0.5km
中小橋	0.6km(23橋)	0.5km(19橋)	0.1km(4橋)

※残る区間については、2022年度の完成を目指し、進めてまいります。

表4 ワイヤロープ設置区間での接触・飛び出し事故件数(当社調べ)

種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度※1	合計
ワイヤロープ設置延長(累計)	4.4km	15.1km	25.9km	36.5km	37.0km	37.0km
接触事故	19件	29件	26件	28件	32件	134件
飛び出し事故	0件	0件	0件	0件	1件※2	1件

※1:2021年度は12月31日までの速報値

※2:ワイヤロープ端部への乗り上げ事故

(2) センターブロック・センターパイプの試行設置(トンネル・長大橋)

トンネル区間、長大橋(延長 50m 以上の橋梁)については、2021 年 11 月に新たな区画柵として、センターブロックおよびセンターパイプの試行設置を管内 2 箇所でおこないました。路面下に排水溝や床版等があり、ワイヤロープの適用が困難であったため、新たな技術にて試行し、正面衝突事故防止対策としての有効性や、適用性の検証をしています。

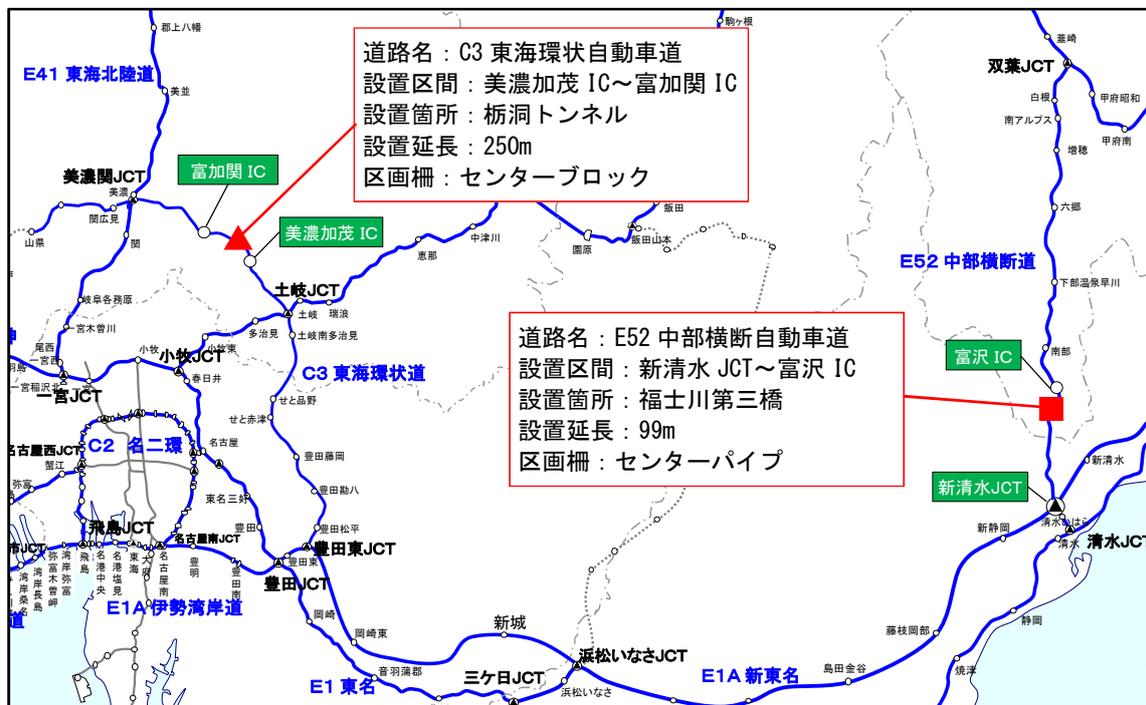


図 6 試行設置箇所



センターブロック(トンネル)



センターパイプ(長大橋)

3.逆走防止対策

逆走は年間 30 件前後発生しています。発生箇所はインターチェンジ(IC)やジャンクション(JCT)が 57%と最も多く、次いで本線が 32%、サービスエリア・パーキングエリア(SA・PA)が 11%と続きます。

また、逆走事故に占める死傷事故の割合は、全事故に占める死傷事故の割合の約 4 倍であり、逆走は重大事故に繋がる可能性が高くなる傾向があります。2021 年は逆走による死亡事故は発生しませんでした。



図 7 逆走発生件数

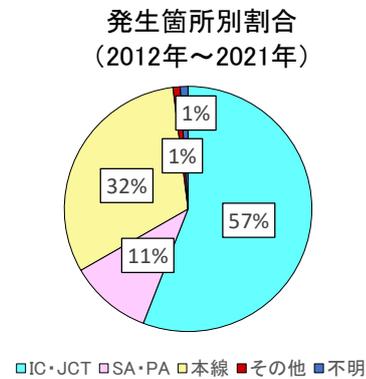


図 8 逆走発生箇所別割合

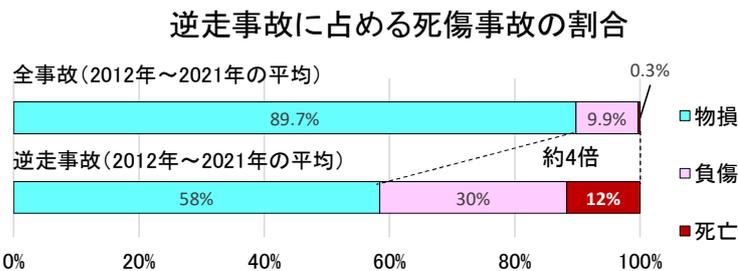


図 9 逆走事故に占める死傷事故の割合

※逆走発生件数は暦年で集計

➤ IC・JCT の本線合流部およびランプ合流部における対策 (2018 年度完了)

IC や JCT の本線との合流部ではラバーポール設置によるUターン防止の物理的な対策、ランプ合流部では高輝度矢印板や、矢印路面標示、カラー舗装による視覚的な対策を実施しています。



本線合流部の対策事例
(高輝度矢印板やラバーポール・路面標示)



ランプ合流部の対策事例
(カラー舗装や注意喚起標識)



➤ IC 出入口での高速道路への誤進入防止対策 (2020 年度完了)

高速道路への誤進入を防止するため、一般道から高速道路に入る専用レーンへの緑色カラー舗装(またはカラー誘導線)や高速入口看板を設置しました。



一般道側のカラー舗装事例



IC入口表示看板の追加事例



IC出口進入禁止看板の追加事例

▶ 民間企業などからの公募技術による対策(2020年度完了)

民間企業等から逆走対策技術の公募をおこない、過去に逆走が発生した箇所における対策を実施しました。



休憩施設ランプ部の対策事例
(電光式逆走警告装置)



休憩施設入口部の対策事例
(プレッシャーウォール)



4.原付バイク等の誤進入防止対策

一般道から高速道路への歩行者・自転車・原付バイクの誤進入の件数は、2012年から増加傾向にあり、2019年では約1,000件発生しています。特に原付バイクの誤進入が多く発生し増加傾向です。

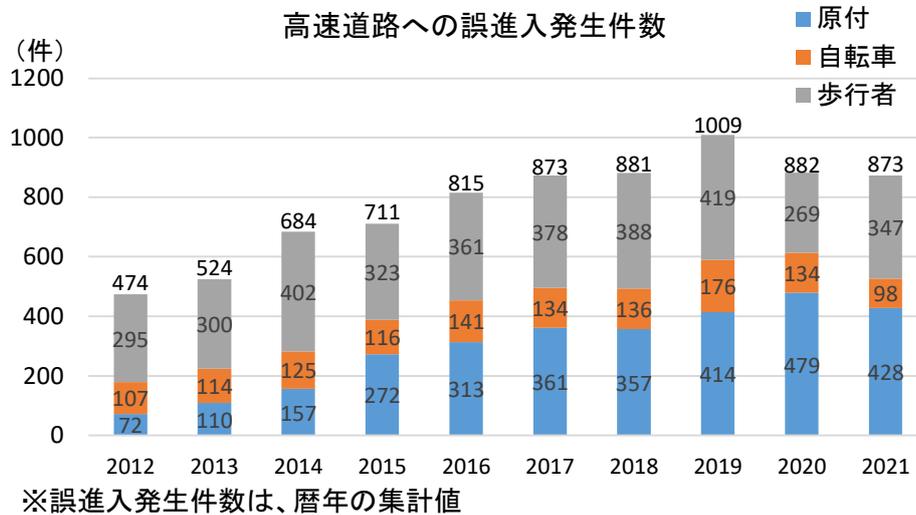


図 10 高速道路への誤進入発生件数(当社調べ)

IC 出入口では、ラバーポールや警告看板の設置、路面標示などによる誤進入対策を進めています。



路面標示やラバーポール設置事例



警告看板の設置事例



車道部への路面標示事例